

今後の天候について

2015/3/20

株式会社ウェザーマップ

107-0052 東京都港区赤坂5-4-9 いちご赤坂五丁目ビル6F

TEL:03-3224-1785/FAX:03-3224-1786

<http://www.weathermap.co.jp/>





今冬(12~2月)のまとめ

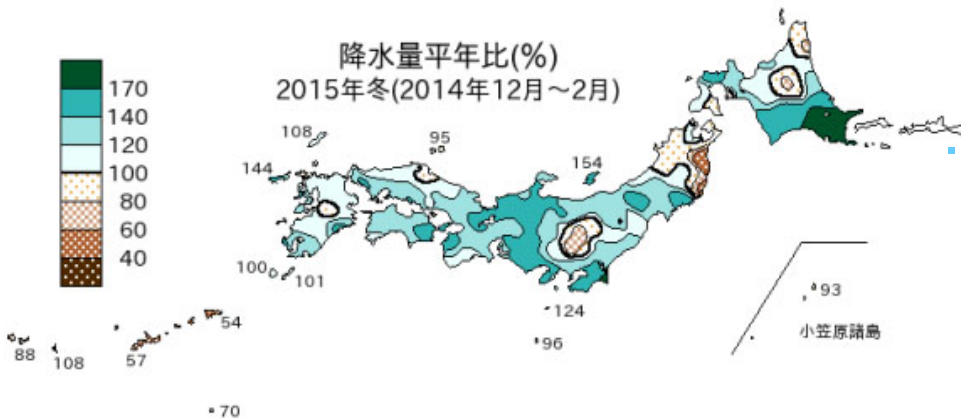
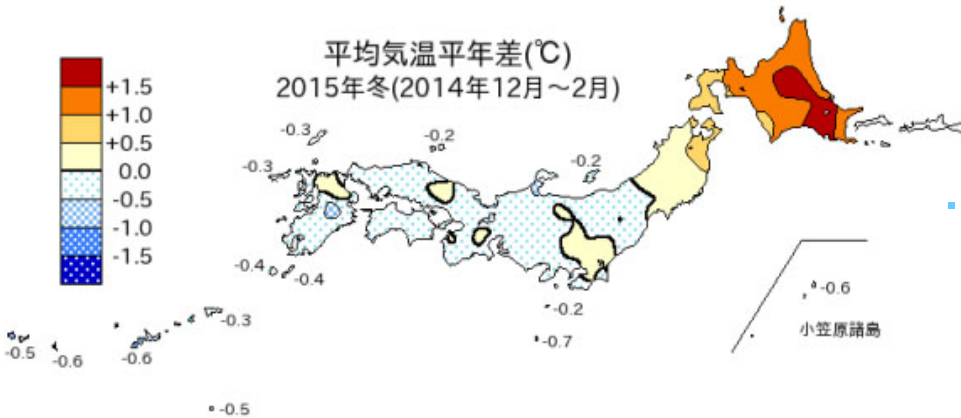
- 北日本は暖冬、東・西日本は寒冬。
12月に強い寒気の南下による気温の低下。東日本では4年連続の寒冬だった。

- 日本海側の降雪量は少なく、北日本の日本海側ではかなり少なかった。

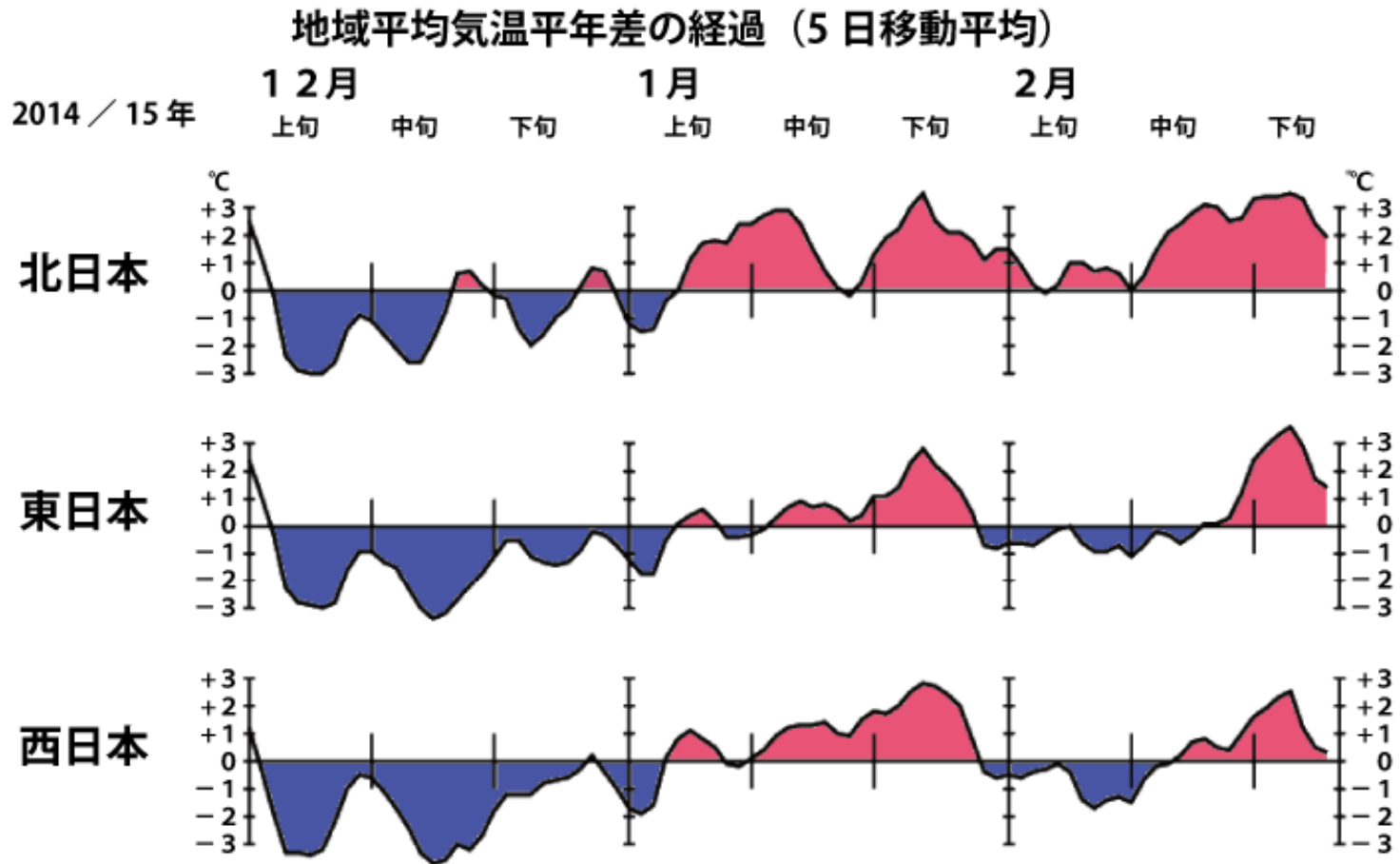
12月に強い寒気の南下に伴って平年を上回ったが、1月以降は寒気の南下が弱かったことから平年を下回った。

北日本では北海道を中心にたびたび暴風雪。

低気圧が北日本の東海上で発達し、北日本では北海道を中心に暴風雪となる日がたびたびあった。



地域平均気温平年差の経過



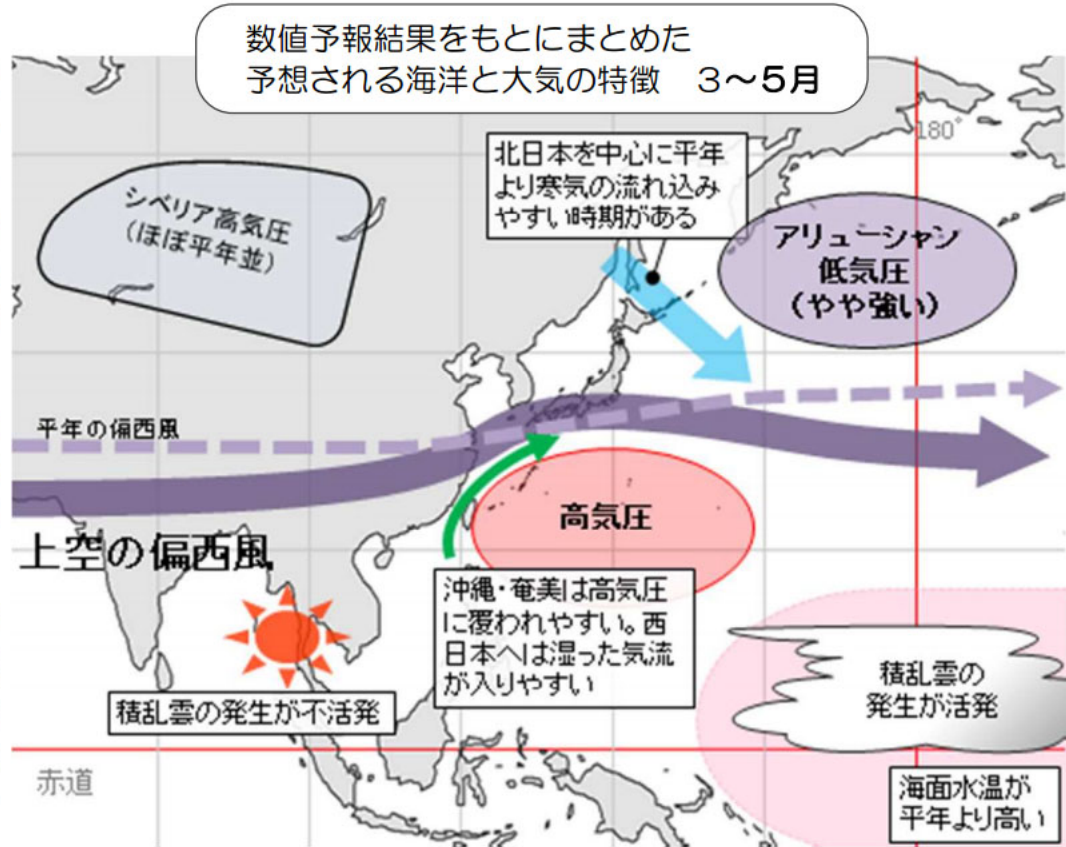


この冬の特徴

- 2014年夏からエルニーニョ現象が発生しているが、大気、海洋の循環の特徴から見ると、**典型的なエルニーニョ象ではなかった**。今冬の日本ではエルニーニョ現象発生時に特徴的な天候や大気の循環は現れなかった。
- 12月の日本は全国的に低温となり、日本海側で降雪量が多くなった。
- この低温傾向は、偏西風が日本付近で南に蛇行し、寒気が入りやすかったことが影響した。偏西風の蛇行には、インド洋東部から太平洋西部の活発な対流活動が関係したと考えられる。
- 北海道付近では低気圧活動が活発だった。

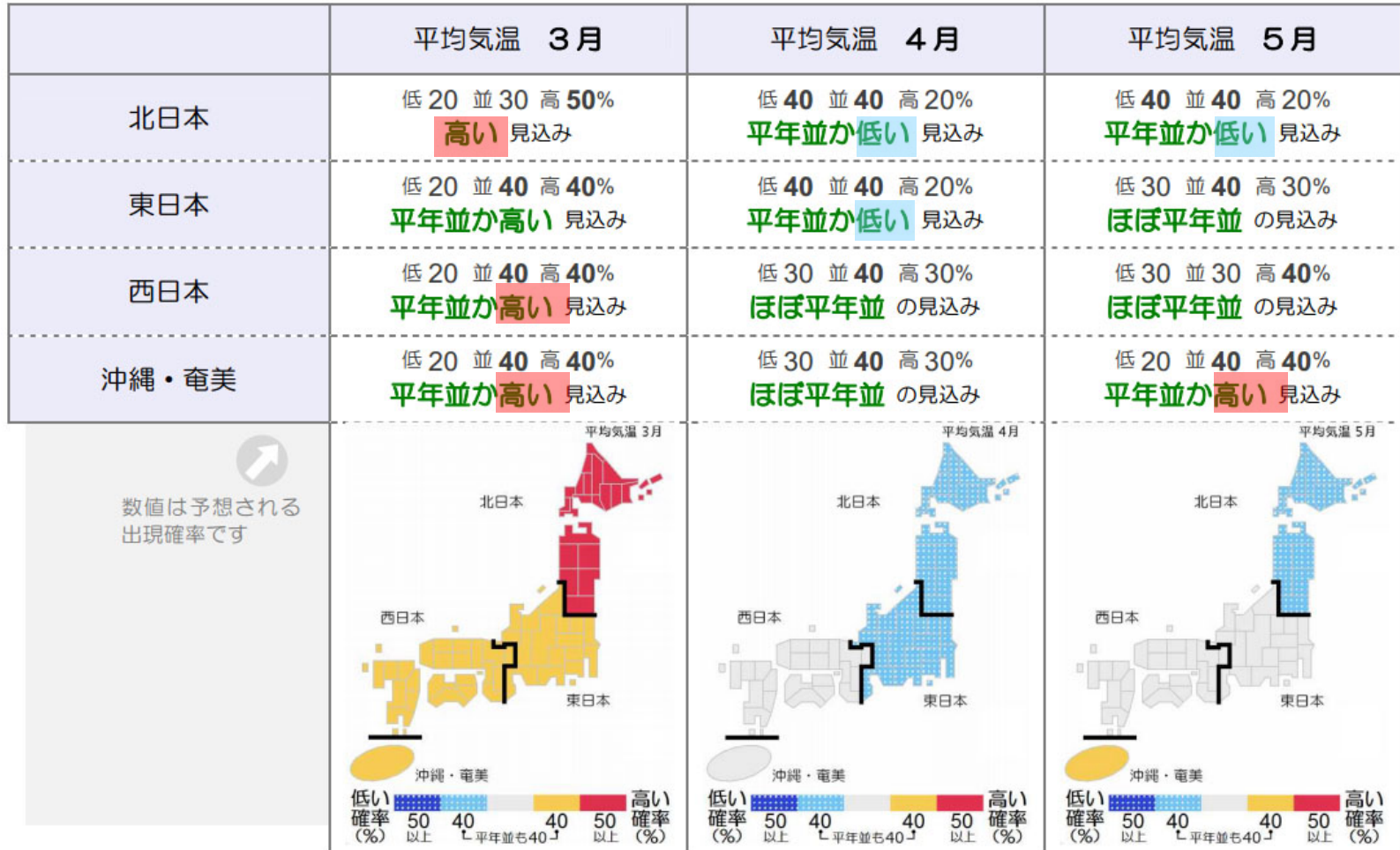
海洋と大気の特徴(3~5月)

- エルニーニョ現象は終息する見込みです。太平洋赤道域の海面水温は、西部~中部で平年よりも高くなる見込みです。
- 海面水温の分布に対応して、熱帯の日付変更線付近で対流活動(積乱雲の発生)が活発となる一方、東南アジア付近で不活発となる見込みです。
- 偏西風はユーラシア大陸で平年より南を流れ、日本付近で北へ蛇行し、日本の東海上で南に蛇行して強まる見込みです。
- アリューシャン低気圧は平年よりやや強く、北日本では寒気の影響を受ける時期がある見込みです。一方、沖縄・奄美は高気圧に覆われやすく、西日本は南西からの暖かく湿った気流の影響を受けやすい見込みです。





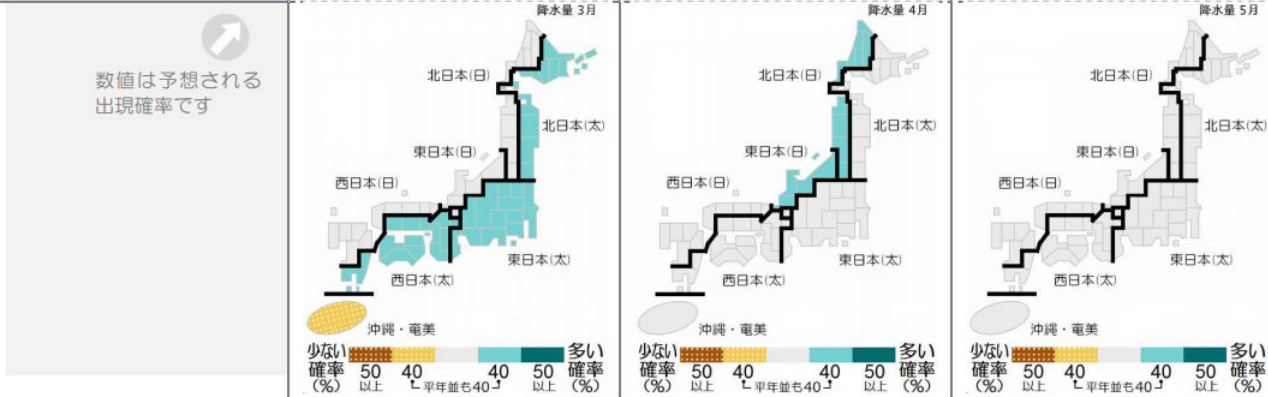
3~5月の予報(平均気温)





3~5月の予報(降水量)

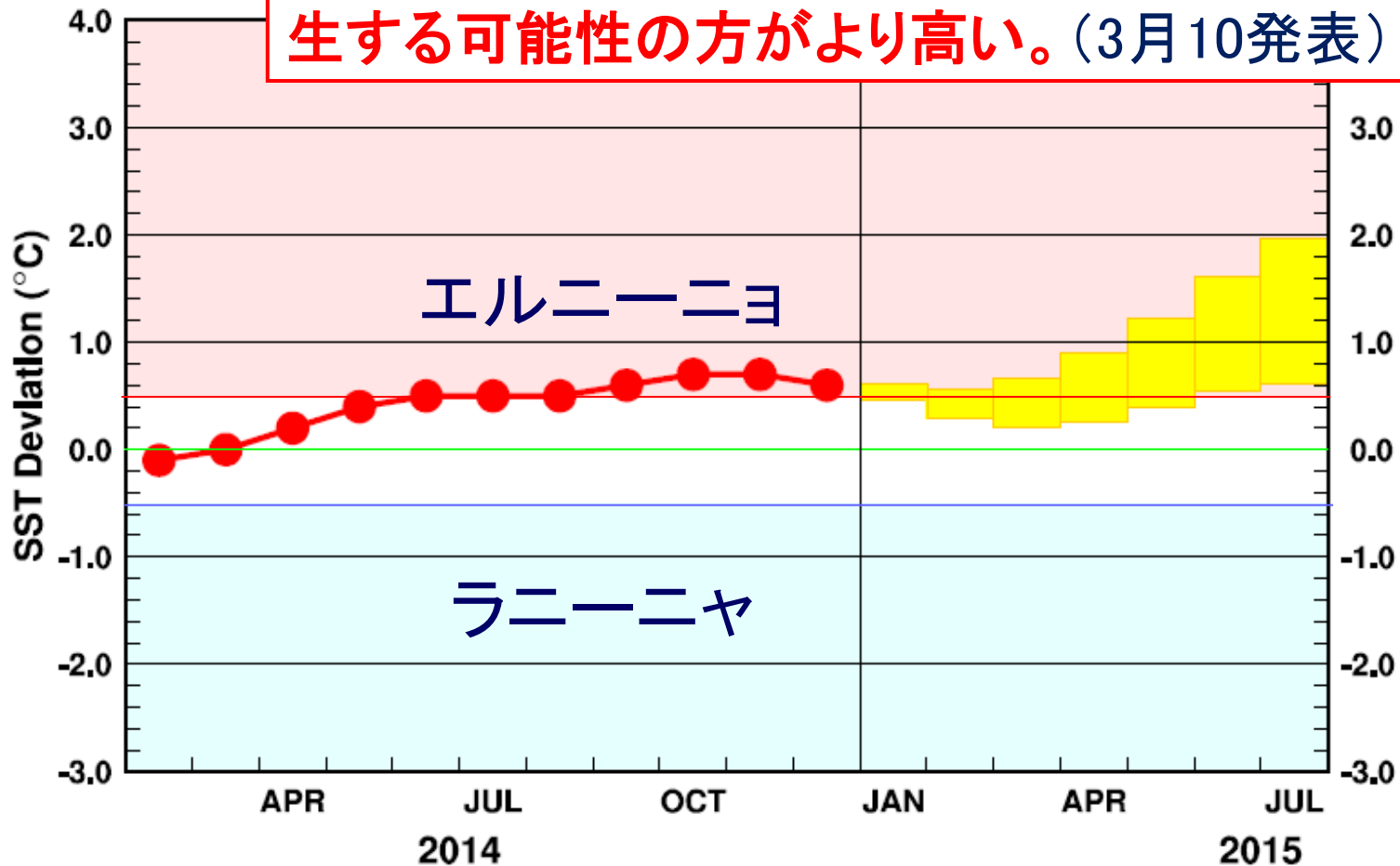
		降水量 3月	降水量 4月	降水量 5月
北日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
東日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
西日本	日本海側	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
沖縄・奄美		少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み





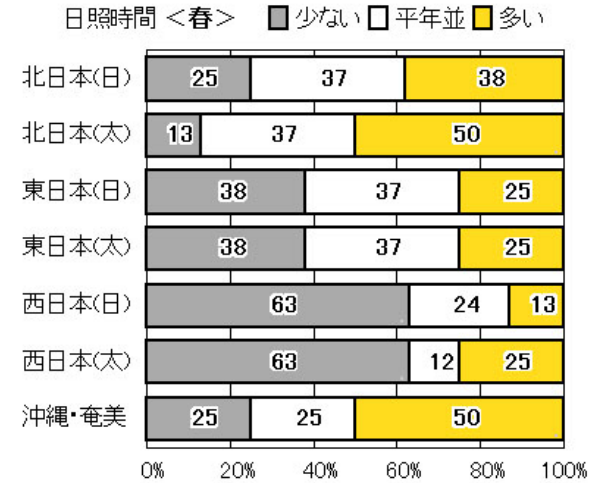
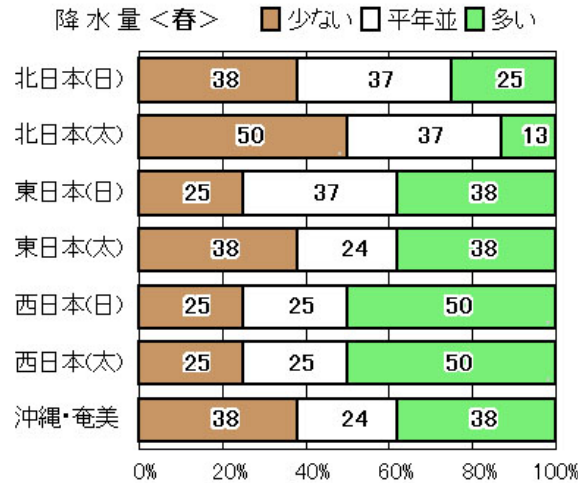
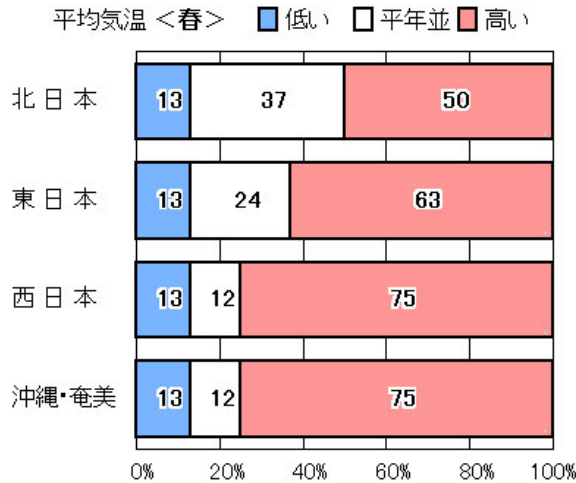
エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測(5か月移動平均値)

昨年発生したエルニーニョは一旦終息したとみられる。今後、平常の状態が続く可能性もあるが、夏までに再びエルニーニョ現象が発生する可能性の方がより高い。(3月10発表)





エルニーニョ現象発生時の3~5月の天候の特徴

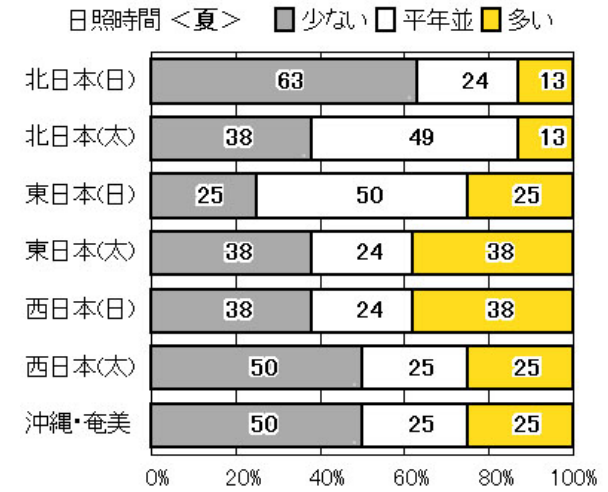
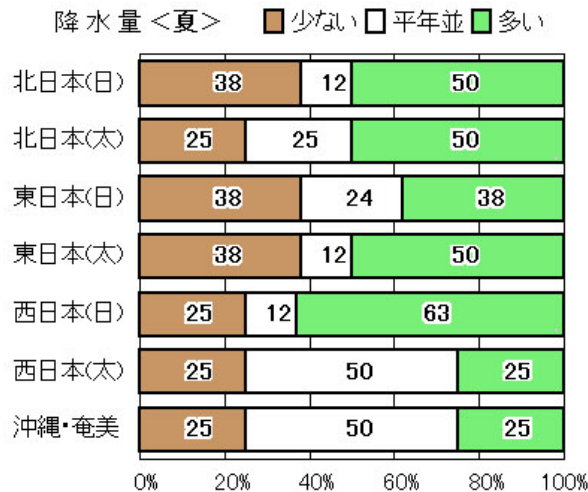
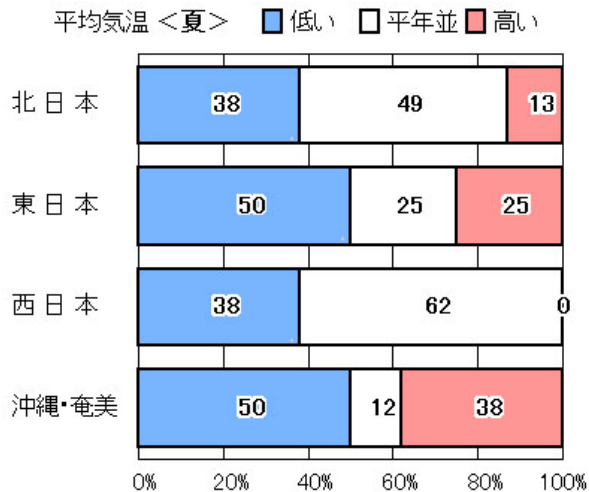


エルニーニョ現象発生時の3~5月の天候の特徴(気温、降水量、日照時間)
統計期間:1979年3月~2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

- 平均気温は、全国で高い傾向。
- 降水量は、西日本で多く、北日本太平洋側で少ない傾向。
- 日照時間は、西日本で少なく、北日本太平洋側で多い傾向。



エルニーニョ現象発生時の6~8月の天候の特徴



エルニーニョ現象発生時の6~8月の天候の特徴(気温、降水量、日照時間)
統計期間:1979年3月~2009年2月。棒グラフ上の数字は出現率を示す。

- ・○平均気温は、全国で低い傾向。
- ・○降水量は、北日本太平洋側、西日本日本海側で多い傾向。
- ・○日照時間は、北日本、西日本太平洋側で少ない傾向。



まとめ(春らか夏の予測)

- この春(3~5月)はエルニーニョ現象も終息し、気温は平年並みの見込み。4月から5月にかけてはやや低温の可能性も。
 - 降水量は平年並みか、西日本ではやや多い見込み。
 - この夏(6~8月)の気温は、東日本では暖かい空気に覆われやすく、平年並か高いでしょう。北・西日本はほぼ平年並の見込みです。
- ※ただし、今後のエルニーニョ現象の動向に注意。